

地域医療支援病院業務報告書

令和5年9月11日

愛知県知事 殿

開設者 住 所 半田市東洋町二丁目1番地

〔法人の場合は、主たる
事務所の所在地〕

氏 名 半田市 市長 久世 孝宏

〔法人の場合は、名称及
び代表者の職・氏名〕

下記のとおり、令和4年度の業務に関して報告します。

記

1 病院の名称等

名 称	半田市立半田病院					
所 在 地	半田市東洋町二丁目29番地					
診 療 科 名	救急科、内科、消化器内科、呼吸器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、循環器内科、心臓外科、精神科、小児科、外科、血管外科、整形外科、リウマチ科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科・歯科口腔外科、病理診断科（26診療科）					
病 床 数	精 神	感 染 症	結 核	療 養	一 般	合 計
	0	0	0	0	499	499

2 施設の構造設備（別紙のとおり）

施 設 名	設 備 概 要		
集 中 治 療 室	(主な設備) 病床数 床		
化 学 検 査 室	(主な設備)		
細 菌 検 査 室	(主な設備)		
病 理 検 査 室	(主な設備)		
病 理 解 剖 室	(主な設備)		
研 究 室	(主な設備)		
講 義 室	室数	収容定員	人
図 書 室	室数	蔵書数	冊程度
救急用又は患者搬送用自動車	(主な設備) 保有台数 台		
医薬品情報管理室	〔専用室の場合〕 〔共用室の場合〕	床面積	m ² 室と共用

備考1 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

2 規則第9条の2第1項各号に掲げる事項を記載した書類を添付すること。

様式第19（第1条関係）の別紙

2 施設の構造設備

施設名	設備概要
集中治療室	<p>（主な設備）救急蘇生装置（気管内挿管セット、人工呼吸装置）、気管支ファイバー、除細動器、ペースメーカー、心電図計、ポータブルエックス線撮影装置、呼吸循環監視装置、人工呼吸装置、経皮的動脈血酸素飽和度測定装置、微量輸液装置（輸液ポンプ、シリンジポンプ）、超音波断層装置、心電図モニター装置（ポータブル）、血液ガス分析装置、持続血液透析装置</p> <p>病床数 22床</p>
化学検査室 （臨床検査室）	<p>（主な設備）多項目生化学自動分析装置、全自動化学発光免疫測定装置、全自動血糖・グリコヘモグロビン測定装置、自動採血管準備装置、多項目自動血球分析装置、自動血液塗沫標本作製装置、全自動血液凝固測定装置、尿自動分析装置、全自動輸血検査装置、全自動新鮮凍結血漿融解装置、血小板振てん器、血液製剤保冷库、新鮮凍結血漿冷凍庫、超低温フリーザー、冷却遠心機、血液ガス分析装置、洗浄室、全自動免疫検査装置</p>
細菌検査室	<p>（主な設備）自動細菌検査システム、全自動血液培養装置、微生物感受性分析機、安全キャビネット、落射式蛍光顕微鏡、生物顕微鏡、細菌検査用遠心機、高圧蒸気滅菌装置、感染管理支援システム</p>
病理検査室	<p>（主な設備）全自動染色装置、自動細胞収集装置、自動包埋脱水装置、パラフィン溶融器、プレパラート自動封入装置、全自動免疫染色装置、フラン器、包埋ブロック作製システム、病理検査システム、凍結組織切片作製装置、滑走式マイクロトーム、ディスカッション顕微鏡、顕微鏡、カセット用印字装置、プレパラートプリンタ、局所換気装置、液状検体細胞診標本作成装置</p>
病理解剖室	<p>（主な設備）解剖台、死体保冷库、写真撮影装置、解剖室滅菌灯、解剖臓器保管庫</p>
研究室	<p>（主な設備）電子カルテ</p>
講義室	<p>室数 7室 収容定員 187人</p>
図書室	<p>室数 1室 蔵書数 図書5,341冊、雑誌92種類（冊子75、電子ジャーナル17）</p>
救急用又は患者搬送用自動車	<p>（主な設備）ストレッチャー、人工呼吸器、超音波画像診断装置</p> <p>保有台数 1台</p>
医薬品情報管理室	<p>[専用室の場合] 床面積 7.9㎡ [共用室の場合]</p>

別紙 1

紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績

1 算定期間 令和 4年 4月 1日 ~ 令和 5年 3月31日

2 紹介率 81.5%

紹介患者の数 (A)	初診患者の数 (B)	紹介率 (A/B×100)
9,347人	11,457人	81.5%

3 逆紹介率 105.6%

逆紹介患者の数 (C)	初診患者の数 (B)	逆紹介率 (C/B×100)
12,099人	11,457人	105.6%

※1 各人数については、前年度の延べ人数を記入すること。

※2 紹介率及び逆紹介率は、小数点以下第1位まで記入すること。

※3 紹介率が80%以上であることを承認の要件とする場合で、紹介率が65%以上80%未満の病院にあつては、今後、2年間で紹介率を80%以上とするための具体的な年次計画を明らかにする書類を添付すること

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

共同利用の実績
(地域の医療従事者による診療、研究又は研修のための利用)

1 共同利用の実績

- ・共同利用を行った医療機関の延べ機関数 191件
 - ・うち申請者と直接関係のない医療機関の延べ機関数 191件
 - ・共同利用に係る病床の病床利用率 0.0%
- (詳細は別紙2 資料1のとおり)

※1 前年度の共同利用を行った医療機関の延べ機関数、これらの医療機関のうち申請者と直接関係のない医療機関の延べ機関数、共同利用に係る病床の病床利用率等を記入すること。

2 共同利用の範囲等

- ・医療機器
全身用コンピューター断層装置 (CT)・核磁気共鳴画像診断装置 (MRI)・骨密度・核医学検査
 - ・開放型病床 (5床)
 - ・会議室、図書室、医薬品情報管理室、研究室
- ※2 病院の建物の全部若しくは一部、設備、器械又は器具のうち、共同利用の対象としたものを記入すること。

3 共同利用の体制

共同利用に関する規程	① ・ 無	
利用医師等登録制度の担当者	氏 名	
	職 種	看護師

※3 共同利用に関する規程がある場合には、当該規程の写しを添付すること。

4 登録医療機関の名簿

医 療 機 関 名	開設者名	住 所	主たる診療科	申請者との経営上の関係
262機関	(詳細は別紙2 資料2のとおり)			

※4 申請に係る病院と同一の2次医療圏に所在する医療機関についてのみ記入すること。

5 常時共同利用可能な病床数 5床

救急医療提供の実績

1 重症救急患者の受入れに対応できる医療従事者の確保状況

No.	職 種	氏 名	勤 務 の 態 様	勤 務 時 間	備 考
	(詳細は別紙3 資料1のとおり)		常勤 [専従 非常勤 [非専従		

2 重症救急患者のための病床の確保状況

優先的に使用できる病床	名称 (集中治療室22床・NICU3床)	25床
専用病床	名称 ()	床

※ 一般病床以外の病床を含む場合は、病床区分ごとに記入すること。

3 重症救急患者に必要な検査又は治療を行うために必要な診療施設の概要

施 設 名	床 面 積	設 備 概 要	24時間使用の可否
(詳細は別紙3 資料2のとおり)	m ²	(主な設備)	
	m ²	(主な設備)	
	m ²	(主な設備)	
	m ²	(主な設備)	

4 救急医療の提供の実績

救急用又は患者搬送用の自動車により搬入した救急患者の延べ数	8,525人 (3,724人)
上記以外の救急患者の延べ数	11,116人 (1,873人)
合計	19,641人 (5,597人)

※ () 内には、それぞれの患者数のうち入院を要した患者数を記載すること。

5 保有する救急用又は患者搬送用の自動車の出動回数 1,035回

6 備考

- ・救急病院の認定 (平成26年2月1日認定)
- ・第3次救急医療施設 (救命救急センター) (平成17年2月1日指定)
- ・地域周産期母子医療センター (平成10年7月1日認定)

※特定の診療科において、重症救急患者の受入れ体制を確保する場合は、その旨を記入すること。

既に、「救急病院等を定める省令」(昭和39年厚生省令第8号)に基づき知事の救急病院の認定を受けている病院及び「救急医療対策の整備事業について」(昭和52年7月6日付け医発第692号厚生省医務局長通知)に基づき救急医療を実施している病院にあっては、その旨を記入すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

別紙3 資料2

3 重症救急患者に必要な検査又は治療を行うために必要な診療施設の概要

施設名	床面積	設備概要	24時間使用の可否
救命救急センター	325.5㎡	(主な設備) 救急蘇生装置(気管内挿管セット、人工呼吸装置)、搬送用人工呼吸器、除細動器、ペースメーカー、心電図計、呼吸循環監視装置、人工呼吸装置、経皮的動脈血酸素飽和度測定装置、超音波断層装置、心電図モニター装置(ポータブル)、血液ガス分析装置、自家発電装置	可
集中治療室	894.0㎡	(主な設備) 救急蘇生装置(気管内挿管セット、人工呼吸装置)、気管支ファイバー、除細動器、ペースメーカー、心電図計、ポータブルエックス線撮影装置、呼吸循環監視装置、人工呼吸装置、経皮的動脈血酸素飽和度測定装置、微量輸液装置(輸液ポンプ、シリンジポンプ)、超音波断層装置、心電図モニター装置(ポータブル)、血液ガス分析装置、持続血液透析装置 病床数 22床	可
脳卒中センター	71.9㎡	(主な設備) 救急蘇生装置(気管内挿管セット、人工呼吸装置)、ベッドサイドモニタ、除細動器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電計、逐次式空気マッサージ器、薬用冷蔵庫 6床	可
周産期センター	293.0㎡	(主な設備) 分娩監視装置、心電図モニター、新生児用人工呼吸器、酸素濃度測定装置、インファントウォーマー、保育器、光線療法器、微量輸液装置、超音波診断装置、ポータブルエックス線撮影装置、血液ガス分析装置、パルスオキシメーター、輸液ポンプ、輸送用保育器	可
手術室	1,204.4㎡	(主な設備) 麻酔器、体温自動冷却装置、血液ガス分析装置、手術用電動双眼顕微鏡、患者監視装置、移動用患者モニター、ポータブル除細動器、電気メス、電動手術台、分離式電動手術台、人工心肺装置、電動式骨手術機器、超音波骨メス、冷凍手術装置、気管支ファイバースコープ、胆道ファイバースコープ、移動式透視装置、超音波手術装置、ナビゲーションシステム、セルセーバー、フットポンプ、輸液ポンプ、シリンジポンプ、温風加温器、インファントウォーマー、婦人科マイクロターゼ、血液加温器、無侵襲混合血酸素飽和度監視システム、BISモニター、超音波診断装置、経食道超音波装置、運動誘発電位装置、小型高圧蒸気滅菌器、鏡視下手術セット	可
検査室	207.6㎡	(主な設備) 多項目生化学自動分析装置、全自動化学発光免疫測定装置、多項目自動血球分析装置、全自動血液凝固測定装置、血液ガス分析装置、全自動輸血検査装置、全自動血液培養装置、心電図計	可
放射線室	671.4㎡	(主な設備) デジタルエックス線テレビ装置、全身用マルチスライスCT装置、全身用MRI装置、頭腹部血管撮影装置、心血管撮影装置、ポータブルエックス線撮影装置、一般撮影装置FPD・CRシステム	可

地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績

1 研修の内容

- ・地域の医療等を含めた症例検討会
- ・医学医療に関する講習会
(詳細は別紙 4 資料 1 のとおり)

2 研修の実績

(1) 地域の医療従事者への実施回数	24回
(2) (1) の合計研修者数	670人 (院外参加者 392人)

※ 研修には、当該病院以外の地域の医療従事者が含まれるものを記入すること。

(2) には、前年度の研修生の実数を記入すること。

3 研修の体制

- (1) 研修プログラムの有無 ・無 (詳細は別紙 4 資料 2)
- (2) 研修委員会の有無 ・無
- (3) 研修指導者

氏名	職種	診療科	役職等	臨床経験年数	備考
(詳細は別紙 4 資料 3 のとおり)				年	
				年	
				年	

※ 研修責任者については、備考欄にその旨を記入すること。

4 研修実施のための施設及び設備の概要

施設名	床面積	設備概要
(詳細は別紙 4 資料 4 のとおり)	m ²	(主な設備)
	m ²	(主な設備)
	m ²	(主な設備)

備考 用紙の大きさは、日本工業規格 A 4 とする。

別紙4 資料4

4 研修実施のための施設及び設備の概要

施設名	床面積	設備概要
第4会議室	146.57m ²	(主な設備) AVアンプ設備、PC・プロジェクター、スクリーン、講演台、ビデオDVDデッキ、ホワイトボード、椅子、机
第1会議室	33.43m ²	(主な設備) 椅子、机
第2会議室	33.43m ²	(主な設備) AVアンプ設備、プロジェクター、スクリーン、ホワイトボード、電子カルテ対応PC、椅子、机
第3会議室	70.34m ²	(主な設備) スクリーン、講演台、32型TV、DVDデッキ、椅子、机
第1研修室	31.07m ²	(主な設備) 椅子、机
第2研修室	13.82m ²	(主な設備) 椅子、机
多目的ホール	60.64m ²	(主な設備) 椅子、机

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法

1 管理責任者等

	氏 名	職 種	役 職 等
管理責任者の 氏名、職種、役職等		医 師	院 長
管理担当者の 氏名、職種、役職等		事務職	管理課長

2 諸記録の保管場所及び分類方法

		保 管 場 所	分 類 方 法
(診療に関する諸記録 ① 病院日誌 ② 各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約)		①管理課 ②医療情報管理室 (サーバー上にて保管)	①日付順 ②1患者1ID番号、1診療録方式 (※各科診療日誌は、当院では外来管理日誌及び看護管理日誌1です。)
病院の管理及び運営に関する諸記録	共同利用の実績	患者サポートセンター	
	救急医療の提供の実績	医事課	
	地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績	医事課 患者サポートセンター	
	閲覧の実績	医療情報管理室	
	紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績の数を明らかにする帳簿	患者サポートセンター	

※ 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績

閲覧責任者	氏名		職種	役職等	
			医師	患者サポートセンター部長	
閲覧担当者	氏名		職種	役職等	
			看護師	患者サポートセンター室長	
閲覧場所	患者サポートセンター、医療情報管理室				
総閲覧件数	医師	歯科医師	地方公共団体	その他	合計
	1,416件	0件	0件	0件	1,416件
閲覧手続の概要	<p>① 窓口受付による閲覧 患者サポートセンターにて閲覧簿に必要事項を記載する。電子カルテは患者サポートセンターの端末機で閲覧する。紙カルテは医療情報管理室の職員に連絡し、取寄する。病院日誌等は管理課の職員に連絡し、取寄する。セキュリティについては病院の担当職員のIDとパスワードを入力し、立会のもとで画面にて閲覧を実施している。</p> <p>② ネットワークによる閲覧 患者サポートセンターにてFAXで閲覧受付後、システムにてカルテ公開の手続きを行い、FAXにて公開設定完了案内を送信する。 セキュリティについてチャンネル・セキュリティはIPsec-VPN、オブジェクト・セキュリティはデータベース暗号化により安全を確保している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・費用負担額：閲覧に関しては原則、費用負担を求めない。 ・受付時間：平日8：30～17：00 				

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

医療法施行規則第9条の19第1項に規定する委員会の開催の実績

1 委員会の開催回数 4回

2 委員会における議事の概要

※委員会の開催回数及び議論の概要については、前年度のものを記載すること。

○第1回半田市立半田病院地域医療連携運営協議会開催

【日時】令和4年6月6日（月）

【開催場所】書面開催

【出席者数／委員数】13人／13人

【議題】

- (1) 令和3年度第4四半期の外来・入院、紹介・逆紹介、救急の実績について
- (2) 令和3年度 患者紹介率・逆紹介率、共同利用、開放病床、登録医の実績について
- (3) 令和3年度 半田病院地域医療研修委員会の報告について
- (4) その他・意見交換等

○第2回半田市立半田病院地域医療連携運営協議会開催

【日時】令和4年8月29日（月）

【開催場所】書面開催

【出席者数／委員数】13人／13人

【議題】

- (1) 令和4年度第1四半期の外来・入院、紹介・逆紹介、救急の実績について
- (2) 令和3年度 地域医療支援病院業務報告書について
- (3) 半田病院事業業務状況報告書について
- (4) その他・意見交換等

○第3回半田市立半田病院地域医療連携運営協議会開催

【日時】令和4年11月10日（木）

【開催場所】半田市立半田病院 第4会議室

【出席者数／委員数】11人／13人

【議題】

- (1) 令和4年度第2四半期の外来・入院、紹介・逆紹介、救急の実績について
- (2) 半田病院事業業務状況報告書について
- (3) 当院でのACP活動報告
- (4) 5年目を迎えた入院支援の活動報告
- (5) その他・意見交換等

○第4回半田市立半田病院地域医療連携運営協議会開催

【日時】令和5年2月6日（月）

【開催場所】書面開催

【出席者数／委員数】13人／13人

【議題】

- (1) 令和4年度第3四半期の外来・入院、紹介・逆紹介、救急の実績について
- (2) 令和4年度上半期半田病院事業業務状況報告書について
- (3) 地域連携診療計画書（地域連携パス）及び医療ソーシャルワーカー介入実績について
- (4) その他・意見交換等

患者相談の実績

患者相談を行った場所	1. 医療相談窓口（患者サポートセンター、相談室等） 2. 患者相談窓口（総合案内窓口、相談室等）		
患者相談担当者	氏 名	職 種	役 職 等
	1. ほか	社会福祉士	
	2.	看護師	医療安全管理室長
患者相談件数	1. 医療相談窓口	3,403件（人）	
	2. 患者相談窓口	10,972件	合計 14,375件

患者相談の概要

1. 医療相談窓口

①在宅医療に関する相談	584件（人）	⑤連絡・問い合わせ・調整・その他	534件（人）
②転院に関する相談	1,174件（人）	⑥介入中止	214件（人）
③施設入所に関する相談	550件（人）	⑦虐待に関する連絡・調整	26件（人）
④福祉制度に関する相談	321件（人）		
合 計	3,403件（人）		

2. 患者相談窓口

①受診科相談（電話も含む）	1,244件	⑩在宅支援・転院支援・退院後の生活について	
②院内施設説明・案内	1,914件	216件	
④他部門・通訳への取り次ぎ	392件	⑪医療費に関する相談	1,308件
⑤受診方法説明	3,614件	⑫医療・福祉に関する質問・相談	1,013件
⑥面会説明・問合せ	55件	⑬診療録開示の相談・問合せ	96件
⑦書類に関する問合せ	123件	⑭受診歴に関する相談・問合せ	10件
⑧駐車券に関する問合せ	413件	⑮忘れ物・落とし物問合せ	147件
⑨医療機関紹介	353件	⑯病院や職員に関する苦情・相談	30件
		⑰他機関から苦情・意見・問合せ	44件
合 計	10,972件		

※ 患者相談の概要については、相談内容を適切に分類し記載するとともに、相談に基づき講じた対策等があれば併せて記載すること。また、個人が同定されないよう配慮すること。

居宅等における医療の提供の推進に関する支援の状況

居宅等医療提供施設等における連携の緊密化のための支援等の実績

- ・在宅療養支援介入実績（退院支援看護師及び医療福祉相談員による在宅調整）
令和4年度 584件
- ・退院前に訪問診療の医師、訪問看護ステーションの看護師やケアマネージャー等とのカンファレンスの実施
- ・看護連携会議を開催
訪問看護ステーション、退院支援部員と連携
- ・多職種共同のシームレスケア連携会の開催
ケアマネージャー、包括支援センター、介護施設、訪問看護、近隣の病院、調剤薬局など
- ・半田市電子連絡帳「だし丸くんネット」を活用し、情報交換を行っている。

医療を受ける者又は地域の医療提供施設に対する情報の提供の実績

- ・地域の医療機関へ毎月1回、外来医師担当表や半田病院だより、患者サポートセンターからのお知らせ、研修会の案内等を送付
- ・半田病院だよりの掲示、配布
- ・ポスターの院内掲示
- ・ホームページの更新
- ・ホームページにて、地域の診療所（登録医）を掲載、検索ができる
- ・医師会の理事会に報告・連絡・相談
- ・医療機関訪問
- ・市民公開講座の実施
- ・医療ソーシャルワーカーを中心とした、有床病院連携会の実施

その他居宅等における医療の提供の推進に関し必要な支援の実績

- ・多職種共同のシームレスケア連携会の開催
ケアマネージャー、包括支援センター、介護施設、訪問看護、近隣の病院、調剤薬局など
- ・地域の関係機関からの相談対応

その他地域医療支援病院に求められる取組みの状況

1 連携体制を確保するための専用の室、担当者

専 用 の 室 の 名 称	患者サポートセンター		
担 当 者	氏 名	職 種	役 職 等
		医 師	患者サポート センター部長

2 病院の機能に関する第三者による評価

評 価 を 行 っ た 機 関 名	公益財団法人 日本医療機能評価機構 3rdG:Ver. 2.0
評 価 を 受 け た 時 期	2019年8月23日～2024年8月22日

※医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

3 退院調整部門の取組

退院調整部門の実績
入院時から退院に向けての支援計画を作成し、退院後も医療と介護の支援を受け、安定した生活を送っていただけるための環境づくりの支援を実施。在宅医、訪問看護、転院、施設入所の希望等を把握し、地域の医療機関（かかりつけ医）や介護施設等との連携・調整を実施。

4 地域連携を促進するための取組の実績

策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容
大腿骨頸部骨折、脳卒中、がん（5大がん、前立腺癌）
地域連携クリティカルパスを普及させるための取組み
連携会の設置、パス利用者の連携の効率化 地域医療機関への説明訪問 パスコーディネーターの仲介

5 病院が果たしている役割に関する情報発信の実績

情報発信の方法
「病院ホームページ」、「半田病院だより」、「患者サポートセンターからのお知らせ」、「がん相談支援センターニュース」、「市民公開講座」、「メディネット」等を活用し情報発信している。
内容等の概要
各科診療科の紹介、当院の取組みや近況報告、研修会の案内、診療表、診療実績の報告、地域連携を推進するための情報等を案内している。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。